



したたかなスイス

研究員 糠谷 英輝

周囲を EU 諸国に囲まれた小国スイスは、EU の地域的拡大が進む状況下においても独自路線を歩み続けている。去る3月4日、スイスではEU加盟交渉の開始を問う国民投票が実施されたが、76.7%という圧倒的多数の反対によって交渉開始は拒否された。しかし否決後も連邦政府は引き続きEU加盟を目指すことを表明している。

EU加盟を拒否し続けることによって経済が孤立化することを危惧し、これを解消するためにスイスはEUとの間で2国間協定を締結している。具体的には人の移動の自由、陸上交通、航空輸送、農業貿易、研究開発、公共調達、技術的貿易障壁(相互認証など)に関する7つの協定を締結し、2000年5月に批准された。孤立化の懸念を最小限に食い止めるとともに、実質的にEUの政策に対応した構造改革が進められる効果も期待されている。

またスイスの国際的大企業の資金調達等を阻害しないよう、ブルーチップ銘柄の取引をロンドンに移行する(私設電子証券取引所 Virt-X での取引)という大胆な措置も実行した(2001年6月25日開設)。

このようにスイスはEUに加盟しない不利益を個別に解消していく一方で、EU非加盟であることを武器にして、EUの政策決定に対する影響力を確保している。非居住者の利子所得に対する課税制度に関して、EUは共通の源泉徴収税率を設けた上で、最終的には情報交換により投資家の居住国で一括して課税する方式を採用することで合意した。これに伴うEU域外への資本逃避を防ぐにはスイス等の協力が不可欠である。スイスはEUに協力する姿勢を表明したが、協力は脱税の防止等についてであり、銀行の守秘義務廃止に関しては応じる考えは持っていない。もし2002年末までにスイス等の協力が得られなければ、EUが共通課税として情報交換方式を採用するか否かは再度、採決に掛けられることになっており、その際、ルクセンブルクは拒否権を行使する可能性を表明している。結果的に共通課税の行方はスイス等が握る状況になっている。

欧州単一通貨ユーロを導入しないリスクとしてはスイス・フラン相場の変動が挙げられる。EUとの経済関係が極めて強いスイスは、スイス・フランの対ユーロ相場の安定が求められている。しかしもしスイスがユーロを導入した場合には、ユーロの金利水準まで金利が上昇し、これまでのユーロ金利とスイス・フラン金利との長期金利差(いわ

ゆるボーナスと呼ばれるもの:現状 1.1%程度)による利益(資金調達コスト上のメリットなど)が喪失することになる。また投資通貨・ヘッジ通貨・逃避通貨としてのスイス・フランの喪失はスイス金融市場の喪失に繋がるものとも考えられる。ユーロを導入しないリスクより導入するリスクの方が大きいと判断されている。

このようにスイスは小国でありながら主権をしっかりと守った上で、経済的利益をも出来るだけ得るというしたたかな戦略を展開している。

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しく願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2001 Institute for International Monetary Affairs (財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: 3-2, Nihombashi Hongokuchō 1-Chōme, Chūō-ku, Tokyo 103-0021, Japan

Telephone: 81-3-3245-6934, Facsimile: 81-3-3231-5422

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2

電話 : 03-3245-6934 (代) ファックス : 03-3231-5422

e-mail: admin@iima.or.jp

URL: <http://www.iima.or.jp>